

第3章

平成27年度次世代グローバルリーダー事業 「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」 事後活動連携強化プログラム

2016年2月21日～2月29日



平成27年度次世代グローバルリーダー事業「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」 事後活動連携強化プログラム

概要

日本青年国際交流機構（以下、「IYEO」）の事後活動派遣代表者の3名が、事業終了後の「世界青年の船」事後活動組織（以下、「SWYAA」）での活動の説明及び国内や世界各国の事業既参加青年とのネットワークづくりについて説明するためにシンガポール東京間に

乗船し、事後活動セッションを2月23日（火）及び24日（水）に開催した。事後活動セッション以外の時間には、船内で「世界青年の船」等の事業の事後活動を紹介するインフォメーション・デスクを設置し、参加青年と直に意見交換や情報提供を行った。

目的

事後活動セッション及びその他の自主活動は以下のねらいを持って実施する：

- 平成27年度次世代グローバルリーダー事業「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」参加青年（以下、「参加青年」）が内閣府の実施する青年国際交流事業、IYEO及びSWYAAについて理解を深められるようセッション及び自主活動に取り組む。
- 事業終了後、IYEOやSWYAA等を通じて、様々な社会貢献活動にどのように取り組めばよいかを参加青年に伝えるために、日本及び外国の「世界青年の船」事業等の既参加青年がこれまで行ってきた事後活動の事例を紹介する。

- SWYAAのネットワークや既参加青年が所属する団体（NPO団体等）を活用・連携し、充実した活動に発展させていくことの重要性を伝える。
- 参加青年が事業後に、陸上、船内で学んできたことをいかして自国で何ができるかを考え、具体化するための活動案を作成し、ほかの参加者と共有するためのサポートをする。
- 既参加青年及びIYEOの代表として、参加青年と事後活動についての意見交換を行うとともに、参加青年の船内活動についてのアドバイス等を行う。

派遣代表者

- 中野 絵理 第21回「世界青年の船」事業既参加青年（写真右）
- 水谷 晃毅 第22回「世界青年の船」事業既参加青年（写真中央）
- 松尾 早恵 第22回「世界青年の船」事業既参加青年（写真左）



派遣代表者の3名

日程

月 日	日 程
2月21日(日)	派遣代表者東京集合、シンガポールへ 平成27年度次世代グローバルリーダー事業「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」 参加青年と合流・乗船、シンガポール出航
2月22日(月)	事後活動セッション実施準備、船内にてSWYAA及びIYEOブースの設置
2月23日(火)	【事後活動セッション】 翌日の事後活動セッション に向けての準備 船内にてSWYAA及びIYEOブースの設置
2月24日(水)	事後活動セッション実施準備 【事後活動セッション】 船内にてSWYAA及びIYEOブースの設置
2月25日(木)～ 2月28日(日)	事後活動セッション振り返り、既参加青年フォローアップ等 船内にてSWYAA及びIYEOブースの設置等
2月29日(月)	平成27年度次世代グローバルリーダー事業「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」 東京(晴海港)着 派遣代表者解散

実施内容

セッション1 (2月23日)

月 日	日 程
9:30-10:00	事後活動派遣代表者紹介 アイスブレイキング(「世界青年の船」事後活動組織(SWYAA)に関する導入クイズ) 乗船している既参加青年の紹介 セッションの目的及び事後活動とは何か説明
10:00-11:10	グループワーク「Action plan idea sharing」 事後活動についての活動紹介、派遣代表者 中野絵理 事業終了後に自分が起こすアクションについて共有する。共有をした相手からフィードバックをもらう。アクションを実現させる中でチャレンジすべき点を共有しアドバイスをし合う。
11:10-11:20	休憩
11:20-12:05	SWYAAの概要と各国の活動紹介 ・ SWYAA国際連盟事務局長 齋藤珠恵 ・ Global Citizens Camp(青森南高等学校)について、派遣代表者 水谷晃毅 ・ SWYAAメキシコの活動、選考への協力について メキシコ・ナショナル・リーダー Jose de Jesus Ruiz Fernandez ・ SWYAAロシアの活動、RUSWY Trainについて ロシア・ナショナル・リーダー Alina Rashitovna Lotfullina
12:05-12:15	まとめ

セッション2 (2月24日)

14:15-14:25	二日目のセッションの説明
14:25-16:15	グループディスカッション「Action planning」 活動発案者より各活動の説明、各活動のサポーターを募る、16の活動グループに分かれて事業終了後に行う活動について話し、目的、期間、役割を決め、広報用のポスターを作り、詳細はプランシートにまとめる。
16:25-17:00	活動内容の発表・セッションの振り返り・全体のまとめ・プランシート提出・SWYAA及びIYEOブースの宣伝

成果

事業中に行った、2回のセッションを通し、ねらいは達成した。今回のセッションを作る上で設定したゴールは「アクティブに国を越えてお互いを応援し、思いを行動に移せる代になってもらうこと」であった。そのためにセッション時間を使ってできることは、誰がどのような事後活動のアイデアを持っていて、誰がそのプロ

ジェクトをサポートしたいと思っているか知り、実現可能な活動プランを作ることである。このセッションの中で16の活動が立ち上がり、参加青年間でのサポート体制もできた。今後、各活動の実現に向けて活発に活動してもらいたい。

事業終了後実施する予定のプロジェクト

■異文化理解 MOOC / SWY学びのネットワーク



SWY事業での経験や、個人の持つ知識を動画で共有 [発案者:メーガン・ロック (オーストラリア)、マティアス・ロドリゲス・ギティエレス (チリ)]

■英語力とメンタルヘルスの能力の向上



英語とメンタルヘルス教育をインドネシアのバリで広めるため、イギリス人をボランティアとして募る [発案者:ケルム・ダサナヤケ (スリランカ)]

■災害リスクの共有



災害が起こった時に役に立つ、自然や技術的なリスクへの対策を考え、それらを受け継ぎ、広める [発案者:ホセ・ルイス・フェルナンデス (メキシコ)]

■ポストカードの破片、外国からのメッセージ



プロジェクトの認知度をあげ、宣伝をする手法 [発案者:ミゲル・ベラクルズ (オーストラリア)]

■緑化計画 ~植林した木と一緒に写真を撮ろうチャレンジ~



植林活動を国際的に推進する [発案者:セハン・カナンガラ (スリランカ)]

■若者と地元の祭



伝統的なお祭りを若者と楽しむことで伝統文化を若者に広める [発案者:波多腰純也 (日本)]

■ロシアSWYトレイン



Train for World Youth、ex-PYとロシアを電車で横断し、ボランティア活動、文化活動を通して、ロシアの文化を広める [発案者:アリーナ・ロトゥフリーナ (ロシア)]

■変化のタネ



それぞれの地域でコミュニティ・ガーデンを作る方法を共有する[発案者:ライサ・ピラトウスキー・グルナ(メキシコ)]

■SEAT - 持続可能な住まいの在り方



自立した、立ち直りの早いコミュニティの設立と発展を助ける[発案者:カブウェ・ツリナグウェ・ムウエンゲ(タンザニア)]

■いつでもボランティア



世界中のボランティア情報を集めて、ボランティア活動を奨励する[発案者:アイシャ・アリ(バーレーン)]

■SWYの家



事後活動の拠点になる場所の運営[発案者:佐田穂絵(日本)]

■SWYを読む



SWYAAの活動を本にして将来のPYに広める[発案者:ダリア・ブチャコバ(ロシア)]

■SWY広報部隊



日本にてSWYの事業を様々な方法で効果的に広報する[発案者:岩淵静佳(日本)]

■SWYウェブサイト



信頼できる情報を提供するサイトを作る[発案者:ムイズ・アララディ(バーレーン)]

■2020東京オリンピックのボランティア活動にむけて



2020年の東京オリンピックの成功に向けて、過去のオリンピックにおいてボランティアをした経験を共有する[発案者:アンスタシア・ベレジナ(ロシア)、カリナ・スポティナ(ロシア)、村上達哉(日本)、菊池瑠梨子(日本)]

■国際連合SWY



Ex-PYで国連の仕事に携わる人と連携し、国連をもっと身近に感じるためのプラットフォームを作る[発案者:高木超(日本)]

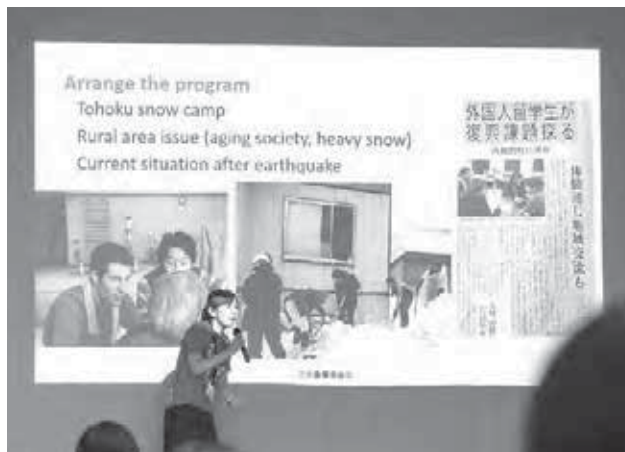
それぞれの事後活動

またSWYプログラムに参加するためににっぽん丸に乗船したいと希望していたので、今回事後活動セッションの担当として乗船の依頼を受けた時は、事後活動への取組を認められたようで大変喜ばしかった。しかし同時に自身の事後活動はどのように発表するかにとっても不安を感じていた。そんな中、セッション担当メンバーと相談した結果、私は特定の事後活動ではなく、船を通して得た興味関心の変化とそれに伴う事後活動の変遷を紹介することになった。それはハードルが高いと捉えられがちな事後活動について、もっと身近に取り組むことができるとイメージを広げてもらうためだ。プログラムを運営したり、団体を立ち上げたりする活動だけを考えるのではなく、船の経験を通して得た興味関心からはじまる「最初の一步」に意識を向けて船上で事後活動を考えてもらうことが私たちの目的の一つだった。

今回、私たちは給油地のシンガポールから乗船し、日本帰港までの約1週間をSWY28と共に過ごした。主要な活動である2回に渡る事後活動セッションでは、前述のとおり既参加青年の事後活動を紹介するインプットと、参加青年自身が下船後に行う事後活動を考えるアウト

第21回「世界青年の船」事業既参加青年 中野 絵理

プットワークを行った。一概に参加青年と言っても、経験や知識には差があり、出発地点は人それぞれだ。「最初の一步」を事後活動セッションの中で表現できた人もいれば、もう少し時間が必要な人もいた。だからこそ事後活動セッションの後もSYW28の参加青年と過ごすことで、全体へのセッションだけでは拾いきれない個人個人の興味や想いに触れることができた。それは取り組みたい活動への想いであったり、下船後の新生活への不安であったり、将来の夢であったりと様々だったが、どれもその参加青年の中から紡がれた想いであつたところが大変魅力的だった。話を聞きながら彼らの力になりたいとの想いと共に、新しいSWY Familyがこれからどんな活動をするのだろうとワクワクし、私自身も触発された。その後、私が役員を務める東京都IYEOのイベントに多くのSWY28参加青年が来場し、SWYのつながりが続いていくことを目の当たりにした。私は今回の乗船をいかし、今後もSWYや他の事業既参加青年が交流できる場を作っていくながら、SWY28のように新たなステージにも挑戦していきたいと気持ちを新たにすることができた。



自ら運営した「東北スノーキャンプ」について紹介



事業終了後どのような活動をするか議論する

サポーターの大切さ

本事業に「事後活動セッション担当」として乗船することが決まったとき、真っ先に考えたこと。それは「世界中から集まる若い青年リーダーたちに対して、自分はどんなメッセージを伝えるか」だった。私が参加青年として事業に参加したのは約6年前。これまでの人生を振り返りつつ二晩ほど考えた結果、行き着いた答えは「サポーターの大切さ」だった。

1日目のセッションで自身の活動事例として紹介した「グローバル人材合宿」も、ある一人の日本参加青年のアイデアを、周囲の仲間が加わってブラッシュアップしていったものだ。みんなで作り上げていくことで一層魅力的な活動となり、その過程も面白く、より大きな成果を生むことができる。二日目のセッションでも、参加青年たちの事後活動の具体的なアイデアを並べ議論するだけにとどまらず、それぞれのプロジェクトに対して応援者を募り、「サポーターリスト」として一覧化した。この試みは参加青年たちにも好評で、「自分のアイデアに自信が持てた」「頑張っ実現させようという



PYへメッセージを伝える

第22回「世界青年の船」事業既参加青年 水谷 晃毅

モチベーションが高まった」などのポジティブなコメントを多くもらうことができた。

サポートには、様々な形がある。目に見える支援や直接的なアドバイスに限らず、悩みを聞くだけでも、ほかの詳しい人を紹介してあげることも、もしくはたった一言の言葉をかけるだけでも、大きなサポートになりうる。私自身、様々な困難に直面する度に、SWYの仲間たちが支えてくれた。どんなに些細な成功やチャレンジに対しても、彼らはいつも「We are proud of you (きみを誇りに思うよ)」と言ってくれた。船を降りてから今にいたるまでの6年の間に、おそらく百回以上はこの言葉をかけてもらったと思う。本当に、いつも救われてきた。

今回のセッションをきっかけとして、参加青年たちがそれぞれのサポーターを見つけ、「みんなと一緒にならできる!」と勇気を持ってくれれば幸いだ。そして私自身も、今回の参加青年たちにとってのサポーターの一人として、今後も関わっていきたいと思う。



自らの興味関心についてグループで共有する

